

## 令和5年度第2回静岡県立中央図書館協議会議事録（要旨）

1 日 時 令和6年2月16日（金）午後1時30分から午後4時まで

2 会 場 静岡県立中央図書館 3階会議室

静岡県駿河区谷田53番1号 電話番号054-262-1242

3 出席者

（委員）

委員 轟木 堅一郎

委員 庄田 達哉

委員 鈴木 千明

委員 鈴木 真澄

委員 高山 ひさ乃

（図書館）

館長 柴 雅房

副館長兼総務課長 山内 小百合

総務班長 遠藤 一穂

企画振興課長 田辺 章

企画班長 青木 修

資料課長 木村 知美

調査課長 鈴木 由美

歴史文化情報セン 望月 克洋

ター-

4 内 容

(1) 開会

(2) 館長挨拶

(3) 会長挨拶

(4) 議事

ア 県立中央図書館の状況及び令和5年度主要施策について

イ 令和5年度各班等重点取組の評価について

（図書館） 利用者が安心して安全に利用できる環境整備について、資料に基づき説明した。

（委員長） 事前評価において、ある程度できている、今後の期待もふくめ不幸な事故があったが評価Bで。

（図書館） 館内職員研修の体系化及び運用について

実施要領に基づいて体系的な研修ができるよう、本年度は要領作成と並行して研修を行った。要領実施は令和6年度からの予定である。

多文化共生に係わる研修として、静岡市国際交流課より中国出身の国際交流員を招き静岡市の取組の講義、多文化共生の専門家である県教委の池上教育長、読書バリアフリーの研究に関して著名な専修大学野口教授の講話も開催。

新館での新しいサービスに向けて知識を得ることに加え、現行館でのサービス向上の参考ともなる機会となった。新館にむけてのワークショップも増え、資質向上の一助となっている。

(委員長) ワークショップの資料の保存や記録はどうしているか。

(図書館) 新図書館整備課で行っている。

(委員) ワークショップについて図書館から要請しての開催はあるか。

(図書館) 新館に向けて図書館の意見を聴きたいという趣旨なので、新図書館整備課からの要請で開催している。

(委員) ボトムアップでの研修もぜひ開催を。

新館の整備にむけてというポイントもあるが、研修を通じて資質向上を図るとなると、計画的にボトムアップ型で、こういう研修を、このような講師を呼びたいというような形で研修を開催しても良いのではないか。「今日の研修は私が求めていた研修だ」というものが増えていくと、よりみなさんの資質が向上されるのではと考えた。

(委員長) 評価にうつりたい。説明を受けて、今後に向けてという観点で評価Aで。

(図書館) 静岡県図書館大会の開催について

満足度は昨年度の91%から92%と上がり目標も達成したが、アンケート回収率は昨年度の30%は上回ったものの、目標には達せず34%だった。アンケート時間を設けたり、スクリーンにアンケートのQRコードを投影するなど向上を目指したい。

回収率を上げるための5つの効果的要素として、1趣旨説明 2設問数少なく 3アンケート回答所要時間を提示 4選択肢を設ける 5謝礼を用意 がある。

回収率の目標設定は、国や自治体におけるWebアンケート回収率の目安は1割から3割のため、より高い意見の回収で設定し4割とした。

(委員) 全体講演会が特に素晴らしく記念大会にふさわしかった。

アンケートについては、参加者が図書館関係が多いため回収率の設定は低いかと考えた。

第3分科会について、全体講演会と同じ会場だったため、昨年度と比較すると、昨年度が具体的な内容だったこともあり、時間が長く感じた。内容は充実していたが、形式（場所の変化がないこと）がもう少しかと感じた。

（委員長） アンケートの回収について、大学の学会等はブースがある。例えばブースにQRコードがある等、そのようなワンストップでも良いのではないかと。

（委員） 視聴覚障害対象のアンケートはあったか。手話通訳希望者の情報はなかったか。参加するのに敷居が高いのではと。

（図書館） 視覚障害者がひとりいた。当日は付添い者がいた。

（図書館） 今の質問について、読書バリアフリー法等で視覚障害者の方の図書館利用を促す方向性がある。今回の図書館大会はなかなかそこまでいかなかったが、恒常的に図書館を利用するには困難が伴っているようだ。一方で、県視覚障害者情報支援センターとすみ分けを相談している中で、イベントに来場を促す環境整備の大切さを感じる。25日の健康情報講演会に来場予定があるため、そこで話を伺い情報を得たい。どのようなサービスが必要か情報を知りたい。

（委員長） 評価について、設定目標に達していないということで事前の評価はBだが、期待もこめてBという評価で。

（図書館） 新館にむけた児童資料の整備について  
新館用の児童資料を保管場所を確保した上で、計画的に購入した。

購入した図書の一部で、どんぐりひろばの汚破損が目立つ資料も取替えた。また、書架を増設し知識の本のスペースを増やした。

引き続き新館の児童室に配架する資料のバランスを考慮して計画的に整備する。また、どんぐりひろばの書架も増設したため、その充実もはかりたい。

また、新館に向けて、必要に応じて選書基準の見直しを行いながら進めていく。（例：学習漫画、紙芝居）

御質問のあった「しっかり目を通すものとそうでないものの基準」は、読み物は著者、訳者、出版社、本の作り等を、知識の本は、監修や索引があるかや監修者のこれまでの著書等を判断基準にしている。第一段階での仕分けを全員で行い、情報共

有し、若手職員も先輩職員から学んでいける体制にした。

(委員) どんぐりひろばの充実を感じる。水仙の壁面装飾も季節感があって素晴らしい。資料も増えている。ただ、本が詰まっているため、出し入れが子どもたちには大変かも。資料も傷みやすくなるかとも考えた。いい本が揃っていると感じた。今後も充実を。

(委員長) 飾りは旧ツイッター等にアップしているか。

(図書館) アップしている。

(委員) 県立図書館に「どんぐりひろば」ができ、保護者も活用している。昔は大人の図書館だったが、利用者層の拡大につながっている。より一層の児童書の充実をふくらめて行ってほしい。

(委員長) 評価については、事前評価でもAであること、実際に拡充に向けて取組をされているということで、A評価で。

(図書館) 新聞雑誌班の新館整備に向けた所蔵資料データ公開体制の構築については、当初は作業マニュアルの改善により省力化を図ったが方針を変更し、ICタグの外部業務委託に当作業を含める予定で調整中である。方針転換のため評価不能とする。

(委員長) 評価については、方針転換のため評価不能で。

(図書館) 県民、県内図書館職員、教職員にむけたレファレンス研修・課題解決支援サービスの充実について資料に基づき説明した。

客観的な評価についての質疑への回答であるが、当館としてはアンケートは重要であると認識しており、回答者・集計者の負担も考慮した選択式・記述式を組み合わせたアンケート及び聴講した班員の意見を評価及び見直しにつなげている。御提案があれば御教授いただければと考える。

認知度を高める対策についての質疑の回答であるが、当館の認知度が低く来館者数も多くない現状を鑑みて、市町図書館支援から間接的に県民の課題サービスの充実を図るという視点で取り組んでいる。

あすなろでの研修にボランティアも参加したいという御意見については、あすなろの担当課に共有する。

職員の資質向上の目安についての質問の回答ですが県教育委員会の司書育成指針に基づいて育成を図っているが、「習うより慣れろ」という側面も強いため「実践する」ことにより資質向上に努めている。レファレンスは、回答した内容を課内で情報共有し、研修は参加者になって聞く側で参加し、その後講師を務める段階的な仕

組みになっている。

(委員長) 客観的な評価について、他県ではどうしているか。

(図書館) 良い視点をいただいた。確認する。

(委員長) 研修の中に実例のようなものはあるか。

(図書館) 例題を解くことはある。

(委員長) レファレンス力の表示をするような、例えばバッジのようなものはあるか。

(図書館) 段階的に研修を受けて実践をしている現状はあるが、バッジ等の表示は特にしていない。

(委員) バッチ等で（レファレンス力が）わかると良いのでは。

(図書館) 職員によってはバッチをつけると逆に難しい質問がきてしまうという不安を感じる可能性もあるので、課内で相談する。

(委員長) 評価について、事前の評価もAであり、積極的に進めている様子なためA評価で。

(図書館) 県民に向けた健康医療情報の発信と提供による課題解決サービスについて資料に基づき説明した。

健康医療情報講演会として2/25に口腔衛生の講演会実施予定。

がん情報コーナーは平均20回以上貸出が目標のところ30回達成。

オンラインデータベースの利用促進は他県の事例を収集し新たな手段を検討したい。

(図書館) どの県の情報や事例が参考になったかという御質問があったが東京都立図書館の健康医療コーナーの事例が充実していて、参考にしている。

(委員) 能登地震で口腔衛生に注目が集まっている。口腔衛生の講演会について期待している。

2023年出版の認知症の本を借りた。新しい本が借りられることは当事者にとってはありがたい。中央図書館の資料は信頼できる資料が揃っているのでありがたい。

(委員) がんセンター等の医療機関との連携はあるか。

(図書館) 県立こども病院の図書室が充実しているため、その司書と連携していた。

その司書が退職したため新たな連携については検討中である。

(委員長) 評価について、事前の評価においてもAであり、積極的に取

り組まれているということでA評価で。

(図書館) 地域調査班 地域資料の収集・保存・提供について資料に基づき説明した。

近世史近代史を専門とする大学教員による貴重資料調査委員会を立ち上げ、デジタル化計画を作成。今後、貴重資料調査委員会の計画に基づきデジタル化していく。

また地域に関する視聴覚資料（具体的にはVHS資料）をDVDに変換するため、計画を8月までに作成、現在年度内に変換予定である。媒体変換したDVDを館外貸出しするためには、権利者等から許諾が必要。許諾作業や許諾が得られるまでの利用方針を作成予定。

地域資料の受入れは、3か月以内の提供を目標に進め、受入点は前年度の2.6倍となった。

(委員) 近世近代はニーズが高い。一般の方は写真で見る方がはるかにインパクトが強い。近代の写真資料の収集保存にも留意してほしい。この意見も反映してもらえたら。

(委員長) 評価について、事前の評価もAであり、計画的かつ着実に行われているため A評価で。

(図書館) 県史編さん収集資料の公開・工法・普及について資料に基づき説明した。

移転に伴って目標を例年の半分にした。所蔵者へ申請中回答待ちは131件。資料の利用は6か月間の開館のところ143件。目標の75件を上回った。自然災害史は数年前から準備している。今後公開予定。

自然災害史について人手不足であるか？という御質問について。3人で業務をしている。資料自体が古いこと、所蔵者の情報自体が古いことで苦慮している。

(委員) ボランティアを募集してみてもいいか。歴史愛好家や教員だった方など。

(図書館) 本物があるわけではなくコピーなので、承諾が必要。葵文庫や久能文庫は価値が定着しているが、価値の明確でないものを専門家に判断してもらっている。

(委員長) 評価について事前の評価でBが多い。苦労の様子がわかるが、評価Bで。

(図書館) 歴史文化情報センターの本館への引っ越し業務について資料に

基づき説明した。計画どおり実施できた。出納のしやすさを  
目指して資料を整理中。

(委員長) 事前評価でみな A、計画通りのため評価 A。

ウ 令和 6 年度の基本方針と主要施策について

(図書館) 資料に基づき説明した。

(委員) 新刊サロンについて、対面と動画も継続を。特に知識の本に関  
して。

(図書館) 内容を見直し、回数も減るが両方行う予定である。

(委員長) 山梨県立図書館派遣の参考になる事項とは。

(図書館) 利用者登録が膨大。本庁から人員動員。交流スペース等建物の  
様子も当館の新館と似ている。アクセスが良くなることにより  
通過点とし立ち寄る人もいる、来館者層も多様になる。学生対  
応に苦慮している。10年たってやっと落ち着いた感がある。

(図書館) 図書館・出版社・書店のつながりが深いと報告を受けている。

(図書館) 交流スペースでは年間 100 本イベント実施。担当 1 人で行って  
いる。多方面と連携している。

(図書館) ボランティア 100 名。

エ その他

次回図書館協議会は 5 月下旬～6 月上旬。